

## ■実施目的

2019年3月に策定した「石狩市地域公共交通網形成計画」に基づき、計画で定めた目標「**公共交通空白地住民の移動環境の向上**」を図るため、**地域住民との意見交換**を行い、公共交通に対するニーズや地域の実態に則した**日常的な移動環境の確保**に向けた取組内容を検討することを目的として開催する。

## ■対象地域

公共交通空白地の中で、かつて路線バスが存在していたものの廃線になり、公共交通への地元要望が強い地域である**生振地区**を今年度の対象地区とした。

## ■内容

### ①石狩市地域公共交通網形成計画について

計画目標や施策についての説明

### ②石狩市及び生振地区における公共交通の課題

既存統計やアンケート結果による地域の概況と公共交通の利用実態・課題、ニーズについての説明

### ③石狩市における公共交通確保の取組み事例

浜益・厚田地区のスクールバス一般混乗化、公共交通空白地有償運送（NPO）、集合型デマンドバス、福祉バス、送迎サービス実証実験などの紹介

### ④意見交換

地域が抱える課題や事例をふまえた意見交換

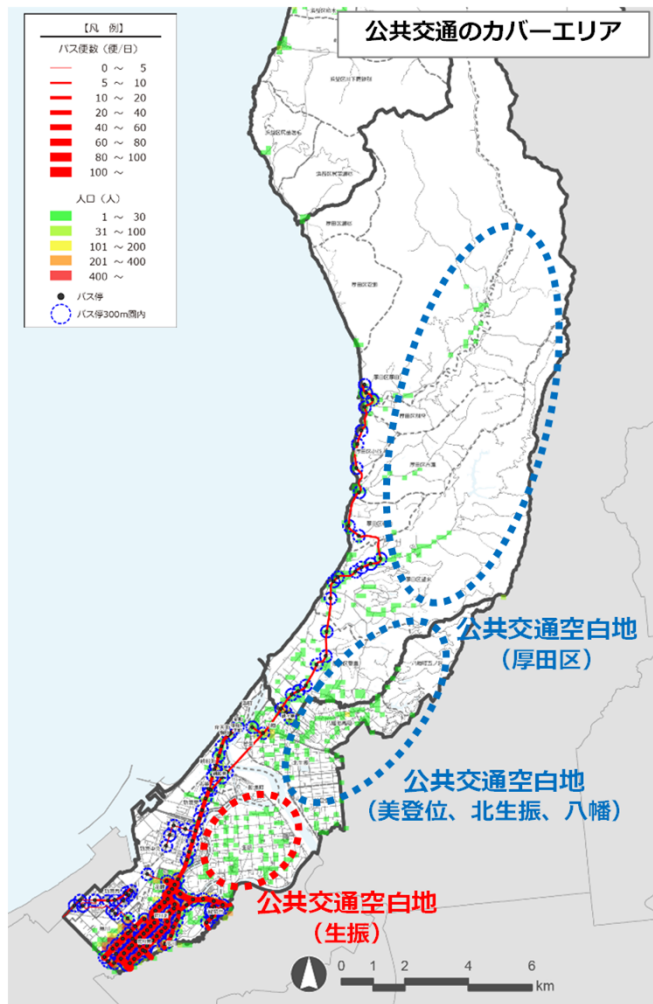
過年度開催の意見交換会



2018.10.1 地域懇談会（厚田）



2018.10.4 地域懇談会（石狩）



## ■意見交換会に関する経緯と今後の予定

令和2年度 第1回協議会  
(2020年2月19日)

・意見交換会実施の概要の説明

第1回 生振地区意見交換会  
(2021年11月25日)

・地域のニーズや実態に則した公共交通についての意見交換

令和3年度 第1回協議会  
(本日)

・意見交換会の結果報告  
・次年度以降の取組内容についての議論

第2回 生振地区意見交換会  
(2021年2月～3月 実施予定)

・地域のニーズや実態に則した公共交通についての意見交換

# 「公共交通空白地」における地域住民との意見交換会(生振地区)

## ■ 第1回生振地区意見交換会 実施日

2021年11月25日(木)

## ■ 意見

分類	意見
現状について	運転免許の返納も考えなければいけなくなり不安である。
	自分の子供が身近に居て、用事を済ますときは乗せてもらっている人が多い。
	送迎を利用して、連合町内会や行事に参加する人は少ない。
	バスを乗り継いで目的地まで行くことが出来るか不安である。
	母親が病院に行く際は、茨戸まで送り、バスやタクシー、歩きで病院まで行っている。
	元気な人は、現状の公共交通に不満が少ない印象。
対策案・要望	コロナ禍前は、マイカーの乗り合わせでイベントなどに参加している人が多かった。
	茨戸まで行くことが出来れば、中央バスを利用して行先の展開が広がる。
	少し歩いてでも、路線バスを使うような交通が良いのではないかと。
	公共交通を利用することで、お店や施設(温泉等)のクーポンや補助利用券などを発行してもらえたり、市が助成金を出すなどして、利用者の負担を軽くするのが良い。
	障がい者の方(車椅子等)や福祉を考えた交通でないといけない。
	病院に行く人は予約日がバラバラなため、曜日ごとに運行先を決めるのは厳しい。
	曜日ごとに運行方向を決める方法が良い。
	「りんくる」への送迎が生振の地域や今回の目的にも沿っているため、「りんくる」へ運行する公共交通が良いのではないかと。また、「りんくる」からバス、タクシーなどで各方面に行くこともできる。
	生振地区、イオン、りんくるを経由するルートが良い。
	アプリで簡単に予約できるようなシステムがあれば良い。
	既存のタクシーを利用して、デマンド交通のような利用も良い。
	年齢を限定した事前アンケートを行うべき。
	安い料金で、自宅まで迎えに来ていただき目的地まで届けてくれるような交通が望ましい。
目的地が大きな病院やスーパーのように決められている運行形態でないとしづらい。	
一部の曜日は住民が目的地を話し合っ決めて運行できる形だと、利用者が増えるのではないかと。	
その他	以前に行った、生振地区から「りんくる」の送迎サービス実証実験の時は、利用者が6人であった。
	高齢者の方限定のような公共交通になってしまう。
	次回の意見交換会では、生振地区全体に呼び掛けて参加者の範囲を広げて行いたい。

## ■ 開催の様子



## ■ 北海道新聞にて掲載 (2021年11月26日)

### 高齢者の移動手段確保を

#### 公共交通空白地解消へ 市が生振で意見交換会

【石狩市は25日、生振地区で「公共交通空白地」の解消に向けた初の意見交換会を開いた。同地区に現在、公共交通機関がなく、住民は主に自動車や移動している状況。参加者からは、より利便性の高い交通手段の構築を求める意見が出された。(伊藤 隆)

意見交換会では、市市長、同地区の町内会長ら10人が出席。市企画課が同地区の公共交通の現状や、市内他地域で実施している予約制の「りんくる」バスなどの事例を説明した。

同地区では、利用者から2006年に中央バスの路線バスが廃止。市が18年に行ったアンケートでは、住民の約割が利用車や移動し、通学買物で札幌方面に行く人が多かった。一方、本年度の同地区の人は3割弱の半分

生振地区での公共交通のあり方を話し合った市と地元住民の意見交換会

市は19年に市域公共交通

8歳の4歳。今回は、地域の事情に合わせた公共交通のあり方を検討する目的で意見交換会を開いた。

参加者からは、高齢者の自動車事故が相次いでいることから、いざいざ免許を返納しないといけない。移動手段を確保してほしいという声があった。一方、高齢者は家族に送迎を頼んでいるケースも、「車先から目的地まで行くような便利な交通手段でない」と、実際に利用する人は少ないのではないかと、タクシー料金の助成や乗り合いタクシーの運行への要望も出された。

市は本年度中に、同地区の意見交換会を行い、本年度に公共交通の確保を行う。市企画課の上藤隆一交通担当課長は「生振に合った持続可能な交通手段を確保したい」としている。

「いざいざ免許返納」「タクシー料金助成を」